

基本事項	事業名	新収蔵作品展／コレクション+ 女性アーティスト、それぞれの世界													
	会期	2025年7月19日～2025年8月26日								開館日数	34 日間				
	会場(ギャラリー)	ギャラリー(1F+地下)								実施方式	01自主企画・単独方式				
	観覧料	一般	500 円						出品点数	84点					
		割引	300 円												
	担当者	出原均、辻瑞生、武田彩莉													
	目的 (一覧表)	一階ギャラリーでは、2022～2024年に収蔵した作品を展示し、市民の財産であるコレクションを紹介することを試みる。地下ギャラリーでは、一部新収蔵作品を加えながら、当館が所蔵する女性アーティストの作品を物語、環境、ケアなど様々な視点で紹介する。所蔵作品に加えて2名のアーティストの作品を展示することで、その世界を広げようとする。													
	キーワード	収蔵作品、女性アーティスト、環境、ケア、物語、肖像、静物													
	他団体との連携 (共催、協力等)														
	参加作家	大澤竹胎	道又蒼彩			田村尚子			津野青嵐			他			
木津本麗		森本啓太			松川朋奈										
多胡宏		岡田菜美			三宅砂織										
松山智一		川内理香子			白井ゆみ枝										
関連イベント	①学芸員によるギャラリートーク: 7/26、8/16														
	②作家トーク(三宅砂織): 8/9														
	③おしゃべりアートデイズ: 8/9														
	③版画ワークショップ(道又蒼彩): 8/11														
① 投入 (支出)・③ 結果 (収入)	印刷物等	ポスター (B2)	チラシ(A4)	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録								
		800 部	35,000 部			2,000 部									
	収入／支出	収入(A)	支出(B)	収支比率 (A)／(B)	入館者一人 当たりコスト	収入内訳									
						観覧料	助成金	他							
		予算	5,111,880 円	8,573,680 円	59.6%	1,715 円	870,000 円	4,241,880 円							
		決算見込	3,256,443 円	5,579,447 円	58.4%	2,092 円	476,100 円	2,780,343 円							
		差額	-1,855,437 円	-2,994,233 円	-1.3%	-	-393,900 円	-1,461,537 円	0 円						
	予算／決算	63.7%	65.1%	97.9%	122.0%	55%	66%	#DIV/0!							
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要		事業の概要 (転記)	当館の所蔵作品による2つの展覧会を開催。1階では、2022～24年に収蔵した作品(絵画、書、版画)を紹介する。地下1階では、一部新収蔵品も加えながら、当館が所蔵する女性アーティストの作品(絵画、彫刻、写真、映像)をまとめて展示。今日、目覚ましい活躍を見せている女性作家たちを紹介するとともに、彼女たちを当館が積極的に収蔵してきた経緯についても触れる。さらに、本展では、現在注目すべき女性作家、白井ゆみ枝、津野青嵐を招聘し、その世界を広げようとする。											
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成 など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート		・広報戦略 ・新たな試み (転記)	・若年層の利用率が高いInstagram広告を配信 ・夏休み中の会期であるため、親子づれにむけた広告を配信											
			広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体 など、特別 な案件]	・上毛新聞など地元紙のほか、美術手帖、TOKYO ART BEATなどの美術メディアで展評・紹介記事が掲載											
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段: 人数(人) 下段: 割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	他	イベント		合計 (人)	日平均 (人)		
		852	71	120	0	208	206	4	1,148	58		2,667	78		
		31.9%	2.7%	4.5%	0.0%	7.8%	7.7%	0.1%	43.0%	2.2%					
	一般指標	指標		目標値		達成値		達成率		特記事項					
		入場・参加者数		5,000 人		2,667 人		53.3% %							
展覧会満足度		80 %		80.5 %		pt		アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)							

## 令和7年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

③ 結果	事業名	新収蔵作品展／コレクション＋ 女性アーティスト、それぞれの世界						
	進捗管理 [スケジュール観]	①A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった						
④ 成果	[④成果] 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	近県の美術愛好者、前橋市民					
		成果	来場者のうち、アンケート結果では県内からの来場者が多く、近隣の方々が多かったと推察できる。					
		ねらい1 (転記)	新規収蔵作品を知ってもらう。					
		成果	市民の財産でもある収蔵作品を2022年から2024年までの3年間公開する機会を持てなかったが、本展でその期間に収蔵した作品をすべて展示することができた。アンケートでも、「(…)ここ数年のアーツ前橋の歩みを感じられた(…)」という反応が見受けられ、ねらい通りの効果が得られた。					
		ねらい2 (転記)	収蔵作品展を楽しんでもらう。					
		成果	地下ギャラリーでは、これまでの収蔵作品の中で、特に女性作家による作品が多い点に着目し、幅広い領域で活動している女性アーティストたちの表現をさまざまな切り口で展示をした。アンケートのなかでも「女性たちの作品に力をもらった」や個別の作品に言及した感想が多く、概ね達成した。					
		ねらい3 (転記)	収蔵作品と併せ新進アーティストを紹介し、展覧会のコンセプトを深める。					
⑤ 波及効果	個別評価  ※記入日を()内に入れてください  ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1参加作家のその後の活動を評価 ⇒後日、記入  2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日、記入  3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価 ⇒展示作家が多く来館し、交流が深まった。また、過去に展覧会を行った作家のトークでは、懐かしむ声や当時の展覧会を評価する声も聞くことができ、長期間にわたり当館に親しんでいただいている方々の姿が浮かび上がった。  4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒女性作家の多彩な表現に触れることで、市民にさまざまな価値観を提供することができたのではないかな。  5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒収蔵作品は地域資源のひとつであるため、今回の展示は地域資源を直接来場者に提示する機会になったといえる。  6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒後日、記入						
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る			
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る			
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る			
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る			
	課題・改善点	・収蔵作品展は県外からの来場者はあまり見込めないため、より積極的にSNSなどを活用して、県内者向けにアプローチする余地があった。 ・コレクション＋における収蔵作家以外の作品や、収蔵作品のなかでも作家によって再構成がなされた作品など、アプローチの目玉となる部分があったのに、それをうまく活用できなかった。						
引継ぎ事項 (特記事項)								
コメント・意見		館長 副館長	4年ぶりの新収蔵作品展と、これまで収蔵してきた女性アーティストにスポットを当てたコレクション展として市民を中心に地域資源であるコレクションを紹介できた。これまでの新収蔵作品展やコレクション展と比較して、観覧者数は多くっており、令和5年度以降の体制による成果が徐々に表れてきていると感じる。					
		運営 評議会						